

編集後記

春はおめでとうやお別れが沢山あります。学部・病院改革を含めた激動の最中、ミレニアムな夜明けと仮題した本号が、多くの読者の目にとまれば、編集委員の一人として望外の喜びであります。(星名 秀行)

編集作業も大詰めに近づいた頃に、相次いで石木名誉教授、草刈教授の訃報に接しました。お二人とも廊下やエレベーターでお会いした時に、気さくに声をかけて下さいました。その時の笑顔が思い出されます。ご冥福をお祈り申し上げます。(岩片 信吾)

恩師中島民雄教授が退官する。なぜ定年前に退官するのか？ 医局員に愛想を尽かしたのか、別にやりたい事があるのか？ ご本人がおっしゃるには役目を終えたとのことだが、中島教授の論文をまとめあげる力は素晴らしく、退官後もご指導いただくつもりである。(教授の了解は得ていませんが。)(濱本 宜興)

広報委員会の中で、本号に2000年を迎えて大きく躍進するイメージを持たせたい、また、なるべく多くの先生方のご意見を反映させたいという希望がありました。そこで、新企画として「自由投稿」を設けたところ、教育、歯科医療など新潟大学の現状や歯科界を真剣に考える声が寄せられました。ご活躍されている先生方の率直なお話を聞く良い機会だったと思います。また、助手紹介のコーナーでは、これからの新潟大学を担う意気込みの一方で、先生方の人柄も伺うことができました。全体的にも、濃厚な内容となり、次回はより充実した内容の歯学部ニュースが出来ることを期待します。最後に、実質的な編集委員長をされました川瀬先生、また広報委員の先生方、お疲れさまでした。(網塚 憲生)

なんだかんだでミレニアム、なのだそうです。表紙の写真も新千年の新たなる夜明けを意識してみました。ちなみに、本誌は元号表示のため、平成11年度第2号ということになり、べつにありがたくもめずらしくもない、ととらえる読者も多いかもしれません。しかしいずれにせよ、大学の定義の変更や存在意義の問い直しが必要なくらい、変革が求められる新時代に突入したことは事実でありましょう。そこで、第1号の焼き直しになることを懸念しましたが、「巻頭言」とわざわざ銘打ってまで再度学部長ならびに病院長にご登場願って、今後の本学および病院の舵取りについて解説していただいた次第です。でも、ほんとは「新春放談」として座談会をやってみるのもおもしろいかなと思ったんですけどね。それはまた今度機会を見つけてやりましょう。また、多くの要望に応じて「歯学部ニュース」の伝統的なノスタルジックなロゴを復活させました。やはり、リニューアルさせるときは、それなりの新ロゴをもって行うのが礎を築いた先達に対する礼儀かな、と思ったからです。というようなことを書いておしまいにしようと思っていた矢先、訃報がふたつ飛びこんできて急遽構成を組替えた次第です。慎んで石木名誉教授と草刈教授のご冥福をお祈りいたします。(川瀬 知之)

歯学部ニュース

平成11年度第2号(通算91号)

発行者 新潟大学歯学部企画広報専門委員会
編集責任者 川瀬 知之
編集委員 星名秀行、岩片信吾、濱本宜興、
網塚 憲生
印刷所 (株)プライムステーション